

令和6年度 三郷市学校評価システム 本評価:学校関係者評価シート						
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.50	3.88	目的への共通理解は図れているが、具体的な手立てまでの話し合いが十分とは言えない。組織的に、共通理解、同一歩調で進めていきたい。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.40		提案前に計画的に話し合いが行われているため、内容も充実し、課題解決が十分に図られている。
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.40		各学級の集団活動、異年齢縦割り活動、業前の集会活動、清掃活動等、望ましい集団活動が多くの場面で実現している。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.20	3.38	獅子舞や米作り、小松菜農家の見学等、「地域で学び、地域で育つ」のもとで、教育活動を進めることができる。
	資質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.85		各学年からのボトムアップ型の倫理確立委員会や、時事に合った取組により、自分事として捉えられるような話し合いの場を設定している。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.60		計画的に研修が進められ、授業改善に取り組んでいる。日課表を改善したことにより、教材研究や学年で相談する時間が確保できている。
授業等の状況	学力向上	7	学校は、ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.25		各学年からのボトムアップ型の倫理確立委員会や、時事に合った取組により、自分事として捉えられるような話し合いの場を設定している。
		8	学校は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.10		教材選定や指導方法を変更した結果を検証し、改善案を立案する。授業展開で、児童の実態に合わせて基礎的な学力を身に付けさせるための、指導方法を工夫している。
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.30		今一度全職員で共通理解を深め、共通指導ができるようにするとともに、児童にも納得させ徹底させたい。
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.50	3.88	配慮が必要な児童への対応方法を考え、学習環境を整えている。
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.50	3.75	月2回のおはなし隊による読み聞かせや、学期1回のブックトークなどにより、興味関心を高めている。図書館までの距離があるため、学級文庫の充実が必要である。
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.45	3.75	図書主任、学校図書館司書の指導のもと、年間を通して、図書委員を中心に様々なイベントを実施し、児童が図書館に選ばれる工夫をしている。
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.15		定期的な学校栄養士の方の、食に関する指導や給食委員の呼びかけを通して、児童が食の大切さに気付くようにしており、残菜にも児童の意識が向いてきている。
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.50	3.75	教員の声掛けにより、休み時間外遊びをする児童が増えているが、体力的には低下傾向にある。学校全体で、具体的な取組が必要である。
	考えの醸成する道徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.15		全校での心の木の掲示を通して、友達の良さを認める活動を行った。自己共に認められるような取り組みを実践するとともに、道徳の授業の充実を努めている。
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.35		廊下の掲示物がとれていたり、ごみが落ちていたりしても気が付かない児童がいる。道徳の授業だけでなく、日々の生活でも指導を重ねていく。
指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.50		挨拶や言葉遣い等、教師自ら範を示し、児童の規範意識を高めるように努めている。
		18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.70	3.88	毎月、生徒指導部会で児童のあいさつを話し合う場を設けたり、児童会であいさつ運動を実施したりした。保護者や地域の方からも、あいさつが良くなったとの評価を複数いただいている。
		19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.30		繰り返し指導が必要である。その都度、個別に指導をするとともに、教職員もしっかりと範を示すようにする。
	生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校や問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.50		組織で対応できる場が整っており、日頃から情報交換をし、素早い対応ができている。
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.65		保護者だけでなく、SCやSW、児童相談所等、関係機関とも連携が図れている。
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.65	4.00	毎月のアンケートや日頃の生活から、早期発見、早期対応に努め、全職員で共通理解している。生徒指導主任、教育相談主任を中心に適切に対応できている。
	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.50		傷病者対応マニュアルを全教員が持ち歩き、迅速な対応ができるようにしている。マニュアルを分かりやすくして、すぐ使える工夫が必要である。
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.70	3.71	毎月、毎日の安全点検を確実にしている。老朽化に伴い修繕箇所が多いが、教育委員会と連携し改善していきたい。
	教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.40	3.89	無言清掃が進んでおり、掃除への意識が高まってきている。見届けと振り返りを徹底していきたい。
		26	学校は、組織的に働き方改革を進めている。	3.10		教職員の意識改革は進んできている。行事や会議、教育課程等の見直しも行っているが、業務内容をさらに精選していきたい。
家庭・地域との連携状況	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.40	3.78	行事ごとにホームページを更新している。各学年等でアップできるような、時間的余裕ができることにより充実できる。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.55	3.89	ミシンボランティア等、協力体制が整ってきている。親の学習を懇談会時に取り入れることができるようになった。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.55	3.88	PTAと協力し、PTAフェスタを実施できた。今後もあらゆる場面で、協力体制を築いていきたい。